

3商店街の代表者の方々に、商店街運営のポイントや活性化方法、将来への展望をお聞きました。



相原二本松商店街
上原 泰久 会長

お客様との接点を作る

商店街運営はコミュニケーションがカギ。会員同士はもちろん、お客様との関りも全て運営につながると考えています。個店は価格でネット販売に太刀打ちするのは難しいのですが、顔を合わせて談笑したり、細かな要望に応えるといった魅力は損なわれていないので、とにかくお客様との接点を作ることが商店街を残していく手段ではないかと思います。

会長としては、若手から新しいアイデアが出れば、それを全体に理解してもらえるように動く。逆もまたしかりといったように、高齢の会員と若い会員の橋渡し役になりたいと思っています。



矢部商工みどり会
高山 みや子 会長

メリットを明確にしていく

何を求めて商店会に加入するのか、どんなメリットがあるのかを明確にしていきたいと考えています。商店会員も高齢化が進み、新しい試みに踏み切ることも難しいとは思いますが、いずれ若い人たちがこのエリアに出店したいとなった時、みどり会ならではの色を伝え、入りたいと思ってもらえる商店会を目指さなければいけません。

商店会員がひとつになり、何か残せるものを作っていけるように努めたいと思います。そして、矢部全体の魅力を高めていけるように商店会の存在感を示していけたらと思います。



あいロード若松商店会
福本 明世 会長

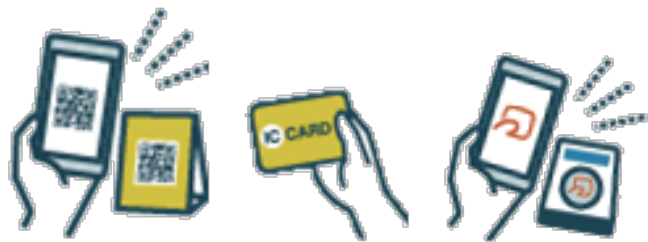
情報交換を大切に

かつて 70 軒ほどのお店がありましたが、今ではだいぶ減りました。個々のお店が光っていないと、これからの時代に生き残っていくのは難しくなっていきます。商店会はその個々のお店のサポートをする組織になることが理想です。

自分たちがいつまで続けられるか、どう次世代につなげていくかといった課題もありますが、情報交換を大切に、まち全体のつながりを意識して運営していきたいです。地域の人にとっても大切な場所であってほしいと願っています。

『時代に合わせ、商店街は変わっていきます!!』 進めています！キャッシュレス化

お客様の利便性向上のため、
各種キャッシュレス決済を多くの店舗が導入しています！



スマートフォン決済やクレジットカード、各種ICカードなど



ポイント還元事業にも積極的に登録!!

<https://cashless.go.jp/consumer/>

商店街カUP! だより 第13号

誰もが気持ちよく過ごせる街づくり！

さがみはらクリーン大作戦



10年以上に渡り継続する
この活動には、
延べ1万人以上が
参加しています



近年の開催実績

回数	実施日	商店街	参加人数
19	平成29年9月13日～9月20日	24	620
20	平成30年3月12日～3月23日	26	671
21	平成30年9月12日～9月28日	24	609
22	平成31年3月10日～3月22日	28	702
23	令和元年9月15日～9月25日	27	626

地域とつながる商店街

地域に密着した商店街では、それぞれ独自の事業を展開し、まちの活性化に努めています。今回は、三つの商店街の事業にスポットを当て、それぞれの商店街がどのように地域とつながっているかをご紹介します。

相原二本松商店街

大感謝祭で子供たちがダンスを披露



買い物しやすい環境づくり

相原と二本松をまたがる相原二本松商店街は、買い物に役立つ様々な取り組みを実施しています。「消費が落ち込んでいる中で、行政の支援策も打ち出されています。そこをチャンスと考え、適用できるものはどんどん取り入れていこうという方針です」と話すのは上原泰久会長。商店街では、市の施策でもある『子育て支援応援店』への協賛や、マイナンバーカードのポイント利用などに取り組み、買い物をしやすい環境を作り上げています。消防団員とその家族への特典が付く店舗もあるなど、地域に根付く商店街ならではの試みも広がっています。



歳末スタンプ抽選会の様子

そんな商店街のマスコットキャラクター『マツボー』は、女子美術大学との産学連携で 30 年以上前に誕生しました。今ではスタンプカードとして親しまれています。その『マツボースタンプ』は、お買い物 100 円につきシールが 1 枚配布され、120 枚を集めて台紙に貼ると 150 円分の金券として使用できるもの。シールと台紙にはマツボーがプリントされています。「ウチでスタンプが貯まったお客様に対して『焼き鳥でも買っていきなよ』なんて声をかけて、商店街を巡ってもらえるように心がけています」と上原会長は微笑みます。また、加盟各店でオリジナルサービスを受けられる『お買い物・ご利用得得券』も実施。裏面に必要事項を記入して応募すると、期間ごとに商品が当たる仕組みにもなっています。

商店街が主催のイベントで最大のものが『大感謝祭』。大規模な抽選会や、地域の子どもたちがダンスや演奏を披露するなど、地域の人が多く集まります。「地域の人にまちの思い出を作りたい。大感謝祭をはじめ、自治会さんが主催のお祭りへの参加なども継続していけるように、若い世代へ伝えていきたいですね」と上原会長。地域としては環境が大きく変わっていく渦中にもあります。上原会長は「リニアが通ってからというのは、正直どうなるのか見えてきません。ですが、協同病院の移転に伴い、また人の流れも変わってくると思いますし、期待もあります。自治会さんとも協力して、二本松の生活空間をどう作っていくのかを模索していきたいですね」と話します。



マツボースタンプとお買い物・ご利用得得券

矢部商工みどり会

商店街のメイン通りは交通量も多い



安心・安全のまちで

J R 横浜線矢部駅から歩いてすぐ、矢部商工みどり会の商店街が見えてきます。交通量の多い通りを中心に、様々なお店が並びます。

矢部商工みどり会の高山みや子会長は、商店会について、「60 年続く商店街で、前会長にも助けられながら活動しています。今は新型コロナウイルスの影響で会合すら気軽には開けませんが、保健所からの情報を還元したり、手づくりマスクの作り方などを共有しています」と話します。

矢部商工みどり会にとって最大のイベントが、村富神社で行われるお祭り。300 年以上の歴史を持つ村富神社では、例大祭に先駆けて『矢部ふれあい盆踊り』が開催されます。みどり会では屋台を出店し、お祭りを盛り上げています。「売り上げは神社と自治会に納めて、余りを打ち上げに使っています。矢部以外の地域からも人が集まりますし、まち全体にとっての大きなイベントなので、みどり会としても大事なお祭りです」と高山会長は微笑みます。



夏祭りが行われる村富神社



味わい深いレトロでかわいい街路灯

また、矢部商工みどり会では、市内商店が一斉に取り組む『さがみはらクリーン大作戦』にも参加しています。「まちの美化は商店を経営している人間にとっても大事なことですし、そういった催しがあれば積極的に参加したいです」と高山会長。高山会長に矢部の魅力を聞いてみると、「以前、市議の方に矢部は“安心・安全のまち”と言われたことがあります。実際にお店をやっている、その実感があります。この空気を守り、新しく住む人や、出店したいという人に気に入ってもらえるまちづくりをしていきたいと思っています」と話します。商店街でお店を続けることについては、「体を壊してしまったり、事業承継であったりと課題はそれぞれあると思いますが、やっぱりお客様が来てくれると嬉しい。お客様がいるかぎりには幸せを感じます」と笑顔を見せました。

あいロード若松商店会

「若沼フェスティバル 提灯祭」の様子



地域とのつながり重視

小田急線相模大野駅から徒歩 20 分ほどの立地にある『あいロード若松商店会』。住宅街と商店街が一体化したような、のどかな雰囲気が魅力です。福本明世会長は「商店街を訪れる人はほとんど顔見知りです。自治会館も商店街にありますし、自治会さんとの距離が近いので連携が図りやすい。イベントの際には役割分担も明確になっています」と話します。

物理的にも近い自治会との関係はどのようなものなのでしょうか。「お祭りでは我々商店会メンバーがお店に専念できるように、自治会さんが運営を担ってくれています。露店の売り上げはお祭りを続けていく上でも重要ですし、良い協力関係が築けていると思います」と福本会長。そのお祭りとは毎年 8 月に開催される『若沼フェスティバル 提灯祭』のことで、商店会が主催する夏の一大イベント。商店街に設置される提灯には募集で募った人に絵を描いてもらい、地域の小学校や子どもセンターの子供たちには、提灯の下に飾る短冊に願い事を書いてもらいます。そんなまち全体で作り上げるお祭りにかける思いを福本会長は「子供たちに地元のお祭りという思い出を大切にしてもらいたい。まちを離れてもお祭りに来てくれる人がいる。ずっと続けていけたら」と熱意を見せます。



商店街北側からのあいロード



お祭りには地域の人々が多数参加

8 の付く日の売り出し日も力を入れている事業です。8・18・28 日の月 3 回の売り出し日に向け、これまで毎月 1 万 2000 枚のチラシを配布してきました。「新聞の折り込みに 6000 部、手配りに 6000 部と刷ってきましたが、今後は縮小予定です。地域の方にはおなじみの売り出し日になったので、効果はあったと考えています」と福本会長。地域に浸透させるために長年続けてきたチラシ配布にも効果を感じています。

あいロードは長い一本道が特徴の商店街。どのように各店とのやりとりをしているのでしょうか。福本会長は「5 班に分かれていて、各班長を通じてそれぞれのトラブルの把握や、配布物などを配ってもらっています」と話します。また、「最近入会した会社さんの従業員にタイ人の方がいらっしゃいまして、お祭りでタイ料理を振舞ってはどうかということにもなりました。そういった新しい出会いも大事にしていきたいですね」と福本会長は微笑みます。